

うしお

共同募金受配施設

社会福祉法人 竜雲学園
うしお編集室(087)889-0724

再第89号

平成二十九年三月五日、名誉理事長が亡くなられました。名誉理事長は、初代理事長細井照道師の理念(限りなく深い人間愛と森羅万象に対する感謝の念)を生かして、当法人の各種施設の建設・運営を進めて来られました。まさに、当法人の施設の生みの親であります。

しかし、名誉理事長は、決して聖人君子然とした人ではありませんでした。明るく、開放的で、そして、やんちゃなところ

「応待に出た細井主幹を見て、本当にこの先生なのかな、と思った。太い眉、大きな目、でっぱった腹、青

年実業家の感じだ。アメリカの海兵隊が着ているポケットがいつぱいついたズボンをはき、ちよつと貧乏ゆすりをしてしながら「どうぞ坐ってください」といった。「この県はメチャメチャです」と話始めるや約一時間半、県の福祉行政への不満をまくし立てた。(その後、あちこちで福祉関係の人たちと会ったが、ほとんど同じことを訴えた)「へえー、ひどいんだなあ」とポカンとしながら聞いていた。そのうち、ムカムカ腹が立ってきた。私を含めて何にも行動しない人たちに。『私は理解できないものがこわかった。だからむやみやた

らと雑学を詰めこんだ。何に對してもいっぱしの意見は持っていたが、なんにもしなかった。細井さんにシヨックを受けた。ここには何かをしている人がいたからだ。足に地につけ歩いていく。『いつだったか、細井さんに「ペンキ塗り手伝いにいくよ」といったら「笑された。『あんた新聞記者やないか。ペンキを塗ってもらうより、書いてもらったほうがずっとありがたい。』ガツーンとうしろから頭をなぐられた思いがした。そうだ。オレは記者だ。事実を追及していくことが、この人たちと連帯することなのだ。』『この子供を尊敬しなくちゃ』となげなく細井さんがいった言葉がまだにほくをしぼりつけている。この言葉を全

体重をかけて口にすることができたとき、ほくも生きている「人間」になれると考えている。』
だいが引用が長くなりましたが、創立六年目頃の名誉理事長の姿が浮かんで来るようです。ちなみに、私は、昭和五十年から二年間、香川県福祉行政の担当課長(婦人青少年課長)を勤めました。が、名誉理事長から、県行政への不満をまくしたてられたという記憶は余りありません。もつとも、名誉理事長以外の福祉関係者からは、相当ひどく責められてお祈りします。



竜雲学園 理事長 田代 健

細井俊明名誉理事長をしのぶ



平成29年度 新職員紹介



竜雲あけぼの学園 看護師 井原 仁美

今年度から正規職員として働かせていただくことになりました。歴史ある竜雲学園の一員となれたことを大変嬉しく思っています。利用者様一人一人のニーズに応えることができるように頑張りたいと思います。



竜雲少年農場 生活支援員 嶋田 祐奈

社会人としての二歩を踏み出し、新鮮な気持ちと不安でいっぱいです。明るさと元気で様々なことに對して乗り越えていきたいと考えています。誰からも信頼される職員となれるよう日々精進し、責任と自覚を持って頑張ります。



竜雲かしのき園 職業指導員 大池 未来

生まれ育った地元香川県で社会人としての二歩を踏み出しました。期待と不安な気持ちでいっぱいですが、周りの方々への感謝と謙虚な気持ち忘れず、日々精進してまいります。皆様から信頼される職員になれるよう頑張りますので、よろしくお祈りします。



竜雲舜虹苑 介護職員 赤松 歩美

歴史ある竜雲学園の職員となれたことに喜びと誇りを改めて実感しています。4月より心機一転特養棟での始まりと

よろしくお祈りします。



平成29年度

寄付報告 ご寄付ありがとうございました。

(平成28年10月1日~平成29年3月31日)

- 浄土宗南海教区教務所 様
- 杉ノ内 修二 様
- 四国明暗尺会 様
- 猪熊 靖子 様
- 後藤設備工業株式会社 様
- 藤原 信子 様
- 水上屋燃料店 様
- 横井 貴 様
- 細井 郁子 様

助成報告

平成28年度高松市共同募金委員会 地域歳末たすけあい助成事業

施設名 ● 障害者支援施設 竜雲あけぼの学園
事業内容 ● 掃除機5台の購入
事業費 ● 169,170円
助成金額 ● 150,000円
事業完了日 ● 平成29年3月15日



平成28年度(第66回) NHK歳末たすけあい寄付金助成

施設名 ● 障害者支援施設 竜雲少年農場
事業内容 ● 災害備蓄マットの購入
事業費 ● 181,440円
助成金額 ● 150,000円
事業完了日 ● 平成29年3月21日



ノロウイルス食中毒

竜雲少年農場において、1月7日の早朝から嘔吐下痢の体調不良を訴えられる利用者様および職員が20名にのぼりました。原因はノロウイルスによる食中毒でした。新聞やテレビ、ラジオ等の報道においてお知りになった方も大勢おられたかと思えます。給食委託業者の富士産業より、「今後二度と発生させないよう取り組んで参ります。これまで以上に衛生管理を徹底させていただきます。」と伺いました。ご利用者様に食の満足を提供したこと、ご利用者様にお掛けしましたこと、ご心配等をお掛けし上げます。



竜雲少年農場 一宮 正人



竜雲少年農場 美濃 裕一

国家試験 合格者紹介

社会福祉士

介護支援専門員

「生活を共感し、共に生きてゆく」皆様に存じのように、竜雲学園の理念であります。この度の名誉理事長計報を受け、この理念の奥深さと偉大さに改めて気付かされます。短くまとめられた言葉ではありますが、決して簡単に実践できるものではないかもしれません。竜雲学園設立から50年以上経た今も、色褪せずにご利用者様、職員を見守りつづけて、そしてまた各事業所の記事でもあるように日常の支援の中で、今後も生き続けるのだと感じます。『うしお』では、引き続き私達の日常をお伝えして参ります。名誉理事長の御冥福をお祈りするとともに、理念を通じて今後も私達に指導いただきたく存じます。

ぼだいじゅ 管理者 H

編集後記



竜雲舜虹苑では毎年1月に介護実技勉強会を開催しています。舜虹苑には6つの事業所(特養・ショートステイ・デイサービス・ホームヘルパー・ケアハウス・支援センター)があります。この勉強会には介護職員だけでなく、生活相談員、看護職員、栄養士など舜虹苑で働く全ての職員が集まり、介護実技について学びます。

今年の勉強会は「介護される側の気持ちを体感しよう」というテーマで開催しました。



主任生活相談員

中村 裕美子

普段私たちは、利用者様の介護をする立場ですが、勉強会では利用者様と同じ目線に立ち、介護を受ける側の気持ちを実際に体験し感じてもらう事を目的に開催しました。

まず二つ目は、福祉用具(スライディングボード・スカイリフト)を使用し、ベッドから車椅子への移乗方法を体験してもらいました。このような福祉用具を使用する事で、介護される側の恐怖心や不安感が取り除かれ、また介護する側の

腰痛予防にもつながります。二つ目は安楽な座位姿勢保持(ポジショニング)の体感です。椅子や車椅子に長時間同じ姿勢で座っていると、体が緊張し安定した座位が保てなくなり、そこでクッション等を活用し筋肉の緊張を緩和し安楽な座位姿勢の整え方を体感してもらいました。

三つ目は食事介助の体験です。実際に食事介助者に食べさせてもらい、介助者に食べさせてもらう利用者様の気持ちを再確認してもらいました。

この勉強会を終えた職員からは、「利用者様の気持ちや、介護技術について再確認ができた」という感想が聞かれました。

今回、このように体験

型の勉強会を開催した事で、介護する際に大切な「相手の想いを理解し尊重する事」について改めて気づき、考える良い機会になったと思います。勉強会で感じた事がこれからの介護に少しでも活かされたら嬉しく思います。

介護は「人対人」の関係であるため、自分の思いや考えだけで対応すると良い結果に結び付かない事があります。相手の思いに気づく事、必要な所に手を差し伸べる事が大切です。この気づきこそが「あったかい介護」につながるのだと思います。

今後もこのような勉強会を開催し、介護職に必要な技術と想いを伝え、舜虹苑で働く職員、そして利用者様がいっしょ笑顔で過ごせるように職員育成にも頑張りたいと思います。

●竜雲舜虹苑

「あったかい介護」

介護実技勉強会からの学び

■故 細井俊明名誉理事長の足跡

昭和 9年 11月	27日京都市良正院に生まれる
昭和 33年 3月	京都府立大学 卒業
昭和 33年 4月	枚方園芸企画に就職
昭和 39年 3月	法然寺28世住職拝命
昭和 39年 4月	ボーイスカウト香川第2団 隊長就任
昭和 40年 4月	社会福祉法人竜雲学園就職
昭和 41年 8月	第四回日本ジャンボリー 隊員と参加
昭和 45年 8月	第五回日本ジャンボリー 隊員と参加
昭和 46年 8月	第十三回世界ジャンボリー 隊員と参加
昭和 49年 8月	第六回日本ジャンボリー 隊員と参加
昭和 51年 4月	精神薄弱者更生施設竜雲少年農場開設
昭和 51年 4月	初代施設長就任
昭和 52年 4月	精神薄弱者授産施設竜雲かしのき園開設
昭和 53年 8月	第七回日本ジャンボリー 隊員と参加
昭和 53年 11月	文殊楼門改修工事 落慶
昭和 54年 4月	方丈改修工事 落慶
昭和 56年 3月	涅槃門改修工事 落慶
昭和 57年 3月	三仏堂改修工事 落慶
昭和 57年 7月	社会福祉法人竜雲学園理事長就任
昭和 58年 3月	来迎堂改修 落慶
昭和 59年 3月	忠学堂・宝蔵・三仏堂屋根改修工事 落慶
昭和 59年 3月	竜雲知床農場開設
昭和 60年 2月	庫裡改修工事 落慶
昭和 62年 4月	精神薄弱児施設竜雲学園施設長就任
昭和 62年 4月	精神薄弱者授産通所施設竜雲かしのき園施設長就任
昭和 63年 3月	書院改修工事 落慶
平成 1年 3月	精神薄弱児施設竜雲学園廃止
平成 1年 4月	精神薄弱者授産施設竜雲あけぼの学園開設
平成 2年 3月	初代施設長就任
平成 2年 3月	祖師堂・本堂・弘法大師堂・黒門改修工事 落慶
平成 5年 7月	特別養護老人ホーム竜雲舜虹苑開設
平成 7年 3月	二尊堂・仁王門・土塀改修工事 落慶
平成 8年 3月	十王堂改修工事 落慶
平成 9年 3月	社会福祉法人竜雲学園退職
平成 9年 3月	柵門・見返り地蔵堂改修工事落慶
平成 9年 9月	法然寺住職辞任
平成 14年 1月	ケアハウス竜雲開設
平成 18年 10月	障害者相談支援センターりゅううん開設
平成 19年 5月	竜雲学園理事長辞任・名誉理事長就任



昭和42年 糸賀一雄先生をお招きして



昭和45年 ジャンボリー 富士山にて



昭和60年 北海道知床に開設された農場にて



昭和63年 書院改修落慶法要 導師

スカイリフトの体験



食事介助の体験



スライディングボードの体験



ポジショニングの体験



●障害者支援施設 竜雲少年農場

「災害時避難訓練」



主任サービス管理責任者
美濃 裕一

近年、全国的に台風による人的被害が相次いでいます。平成28年台風10号による水害では、死者・行方不明者27人を数える等、東北・北海道の各地で甚大な被害が発生しました。とりわけ、岩手県岩泉町では、グループホームが被災し、入所者9名が全員亡くなる等、高齢者の被災が相次ぎました。70名の利用者様を預かる施設として、他人ごとではありません。万

が一の事態に備え、すべき課題は山積みですが、僅かながら施設として取り組んでいる内容を今回の話題にさせていただきます。平成28年9月に遡りますが、台風16号の接近に伴い、一部の利用者様29名を近隣の旧粉所小学校の体育館へ訓練を兼ね避難を実施しました。皆さんご存知かと思われませんが、自然災害の発生、もしくは発生の恐れがある場合に自治体より状況

に依りて「避難準備」「避難勧告」「避難指示」が発令されます。一般的に避難する段階は「避難指示」と思われがちですが、要援護者の場合、避難に時間を要するため「避難準備」の段階が望ましいことは内閣府の防災情報に示されており、今回、施設の判断基準も「避難準備」の段階での避難を決定しました。避難所であった旧粉所小学校の体育館については、事前に綾川町教育委員会との打ち合わせにて承諾を得ていましたので、急な避難にもかかわらず受け入れていただけました。

今回、半日ほどの避難生活でしたが、個々の利用者様が慣れない場所での不安となつても気分転換できるように、おやつ、DVDビデオ、カードゲーム、その他、個々の余暇グッズ等を少し大袈裟なくらいに準備しました。しかし、訓練を兼ねた避難とはいえども時間が経過する毎に利用者様の表情からは不安が見受けられました。そういった中、利用者様の表情に笑みが戻ったのは食事の時間でし

た。竜雲少年農場では、最悪の事態を想定して、ガス、電気を使用せずに調理ができるアルファ米といった非常食を備蓄しています。アルファ米とは米を乾燥したもので、水もしくはお湯に30分程浸して戻す食料です。色々な味が楽しめるよう、おこわ、チキンライス、五目御飯、ドライカレー等を備蓄しています。ちなみにこの日のメニューは「五日御飯」でした。職員は避難所での調理を試み、利用者様に試食していただきました。口数少ない利用者様の表情が和らいだ瞬間、非常事態であった

としても食の大切さを痛感したと同時に、個々の表情から一時の安心を得ました。半日ほどの避難生活ながら、利用者様、職員共々は災害メールを確認しながら、いつ台風が過ぎるのかと心の中で待ち望んでいました。これが1週間、もしくは1ヶ月となると精神面はもちろん、その他様々な場面において更なる厳しさが重くのしかかってくる現実を考えさせられました。日頃の訓練、マニュアル・備蓄品の整備等を含め、条件的に難しい部分は多いかと思いますが、避難所への避難となつたとしても、利用者様にとつて普段と変わらない生活にできるだけ近づけることが可能となるよう配慮すべきであると今回の経験を通じて学びました。



●障害者支援施設 竜雲あけぼの学園

「製麺班 泊旅行！」



就労支援員 淵崎 沙織

就労移行支援事業・製麺班では泊旅行が2月の恒例行事となっております。今回の行き先は広島でした。余暇支援ではなく余暇活動として、行き先から旅行行程まで利用者様達で立案していきます。旅行のしおりも皆さんで作成していただのですが、旅行会社のものにも引けを取らない仕上がりになっています。行きのバスでは事故の影響から到着時

間が1時間半程遅れるというハプニングから始まり、到着するなり冷たい雨風に出迎えられるなど日頃の行いは大事だと思わずにはいられませんでした。その後天気は回復に向かい、宮島散策を楽しめました。宿泊先の旅館では、風呂場にドライヤーはあるがコンセントがなかったり、部屋の暖房が効かず凍える夜を過ごしたりとツツコミと笑いの要素

がたっぷり詰まっています。二日目は呉方面に行き、大和ミュージアムを見学しました。隣接している鉄のくじら館にも行く予定でしたが、補修工事のため臨時休業。笑うしかありませんね。旅行後、振り返りとして感想文を書いていただくのですが、バスのエピソードで終わる方、ご当地グルメや平和について語る方など行き先は同じでも印象に残っていることは個々に異なり個性溢れるものでした。仕事を続けていく上では生活面やイベントの充実も不可欠だと感じています。学園卒業後も自分の稼いだお金で、友達や家族との旅行を楽しんでもらえたらなと思います。

どこからともなく鹿が続々と集まって来ました★

いざ宮島へ！これから始まる旅路にわくわく★

雨があがってよかったです！近くで見るととてもおっきくて圧倒されました！

広島と言えば～これは外せません！広島名物堪能！

少し旅の疲れが表情に・・・(笑)

就労支援事業所 竜雲かしのき園

「他事業所訪問&ランチ体験」



管理者代理 内海 純子

去る11月と2月に初めての試みで、他事業所訪問&ランチを企画しました。

日頃、かしのき園以外の事業所への訪問は花キャンパインの寄せ植え配達など、作業を通しておじやまする機会はあるのですが、その場で時間を過ごし、皆さんが働いているところを見る機会はなかなかありません。

そこで、余暇活動でも人気のある外食を兼ねて、飲食業を営む2つの事業所を利用させ

ていただきました。

1回目は、多肥上町にあるスマイルハートあすみの経営する『カフェベーカリーあすみ』。ここは園からも近く、送迎車やドライブ等でよく通る身近な事業所です。希望を募り、利用者様25名が2日間に分かれ利用しました。

わくわくドキドキしながら店内に入ってみると日当たりのいい明るい雰囲気のカフェ。「いらっしやいませ」の明るい声で温かく迎えてくれました。1人ひとりに運

ばれた、この日のランチのメインはハンバーグ。柔らかくてジューシーなお肉に思わずつこりでした。普段の給食とは違う雰囲気の中、周囲を気にしながらゆっくりと頂きました。「皆さん静かですねー」とスタッフの方に感心されたほど。「いえ、いつもはもっと元気です(笑)・」の場面もありましたが、緊張が解けると懐かしい方との再会もあり、おしゃべりも弾みました。

2回目は、田村町リハビリセンター前にあるD.O.やまびこの経営する、『うどん店 やまびこ屋田村店』。利用者様26名が2日間に分かれ利用しました。ここはリハビリセンター草刈作業の際、通りがかる事業所。「昔来た事あるような・」。一度来てみたかった。」とそれぞれの思いで入店しま

した。運ばれてきたのは、うどんと手作りお弁当がセットになった「ヘルシーランチセット」。栄養バランスのいいヘルシーお弁当と、『竜雲うどん』とはまた違った太めうどんのおいしさにこれまた満足。皆さん完食されました。「また、リハセンに来た時に寄ってみよう」と言われる方もいて、その後何度かプライベートで利用されたとか。

今回の企画は、作業の合間の1時間のランチタイムでしたが、食後には事業所オリジナルのパンやうどんかんとうなどの商品を購入したり、いつもと違った空間で、実際に働かれています。知人やスタッフの方とも交流を楽しまれ、充実したランチタイムになったようです。

あすみさん、D.O.やまびこさん、お世話になりました。



おいしかった!



カフェあすみにて



食後のお買い物(やまびこ屋にて)



多機能型事業所 ぼだいじゅ

「竜雲うどん研修旅行」行ってきました。」



職業指導員 加嶋 健一郎

竜雲うどん(就労継続支援A型事業所)では、毎年2月頃に研修旅行を実施しております。研修旅行という

と堅苦しく思われるかもしれませんが、他県で飲食店を営まれているA型事業所様を訪問し、見学とお食事をさせていただいております。また慰安旅行もかねており、昨年は大阪のユニバーサルスタジオジャパン、一昨年は京都観光を行いました。

さて今年も、愛媛へ

行ってまいりましたので、その模様をご紹介します。

今回訪問したのは「クックチャム・マイママ」というA型事業所様です。クックチャムという

全国展開されているお惣菜屋さん福社部門です。高松にも数店舗あるので、ご存知の方も多いかと思います。そちらでは、全国のクックチャムで提供されるコロッケやハンバーグなどの食品を製造されていました。1日に何千個という注文があると

のことで、そのスケールの大きさに利用者様も職員も圧倒されました。マイママ利用者様が担当責任も大きく、プロ意識の高さや現場の厳しさなどに触れ、大変勉強になりました。昼食で訪れたクックチャム系列店の定食屋さん「ばあばのお昼ごはん」では、なんとクックチャムの社長様が厨房で働いておられました。とても気さくな方で、良い刺激をいただきました。定食は副菜も充実していて、とてもおいしかったです。

研修以外では、タルト巻き体験、松山城見学、別子銅山探検、道後温泉入浴など、天候にも恵まれ、愛媛県を満喫してまいりました。また来年も楽しい旅行に行けるように、今年も力を合わせて頑張つてまいります。



とっても広い松山城



タルトのかぶりもの



トロッコは大人もはしゃぐ楽しさ!



ばあばのお昼ご飯の様子



うどん屋のマドンナ達



マイママ研修 皆様真剣な様子です